

3T LE ORIGINI

3T Historical Facts • 3T L'Histoire • 3T Geschichte

3T最先端素材とエルゴノミックでユーザの為の設計

ジーノ・バルタリやジモンティ等伝説のカンピオーネ達が現役で活躍していた40年以上前に3Tはスタートしました。その革新的であり、しっくりと手に馴染むパーツの数々は、ウルリッヒやチッポリーニのような現代の選手まで、数々のアスリートに愛されてきました。

3Tは7075-T6やAL7000ALUTAN-T6(アルタン) ハイモジュラスカーボンやT700ケブラー等の先進素材を常に取り入れています。70年代の名作SUPERLEGGELA(スーパーレジラ)を始めとして現在はPRIMA199(プリマ199)シリーズに代表される「実用的な強度を持つ超軽量ハンドル」を作り続けています。

FORMA SL(フォルマSL)シリーズから始まるエルゴノミックデザインは、EVA(エヴァ) MORPHEUS(モルフェス)のような手の小さいライダーにも対応したモデルを生み出しました。MORE(モア) BIO MORPHE(バイオモルフェ)は、金属素材よりも自由に整形できるカーボンのメリットを活かし究極とも言えるエルゴノミックデザインを迫及しています。

また、3Tは剛性の確保を常に気を使っています。LESS(レス)シリーズのような超軽量シリーズまでも「先ずライディングに必要十分な剛性」を確保してから軽量化をします。とにかく重量に目が行きがちなカーボンを使用したパーツ類も「剛性を確保できる形状」を重要視しているのです。従来の製品の素材をカーボンに置き換えただけのパーツとは一線を画しています。

パーツを使うライダーの視点に立った製品作りも特長です。例えばA.C.C(Anti Compression Channel)はシートクランプの応力集中に弱いカーボンパイラーをより使いやすくする為、潰れやすい個所に予め補強がしてあります。常に細かなポジション調整を余儀なくされるプロライダーからの要望があればこそ生まれたアイディアです。

他にも常にバイクに乗り続けるライダーなら「なるほど!」と唸らせる細かな工夫が、製品のそこかしこに盛り込まれているのです。